

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2491200115		
法人名	株式会社 インテック		
事業所名	グループホーム 伊賀まち いこいの里		
所在地	〒519-1405 三重県伊賀市野村字安田129-1		
自己評価作成日	平成29年10月27日	評価結果市町提出日	平成30年2月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyouSyCd=2491200115-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	評価認証推進機構株式会社
所在地	三重県四日市市桜町3690-4
訪問調査日	平成 29年 11月 28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

いこいの里家訓である「いつまでのその人らしく こち良い空間で いきいきとした時間をのんびりと穏やかに ささえ合いながら とともに生活を歩んごう」を職員全員で取り組んでいます。また、利用者様・家族様が望まれればラストステージを迎えることの出来る様努めています。

入居された利用者様がいつまでもお元気で過ごせるよう職員全員で暖かく見守り家庭的な雰囲気毎日過ごせるよう努め、出来るだけ時間がかかっても自分で出来るところまで行って頂き、ご本人に寄り添いながら生活を楽しく過ごせる施設です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

伊賀ののどかな田んぼが続く道沿いにある伊賀まちいこいの里は、3棟どの棟からも大きな掃き出し窓から中庭や自然の景色が眺められ開放感がある。ここは家庭的な雰囲気、穏やかな時間が流れている。重度化が進み、畑や外出が困難になったが、自然を感じて貰おうと花を切らず生け、お茶やおやつを戸外で楽しんでいる。特徴的な取り組みは、感染症の予防も兼ね1日5回手洗いをし、時間の区切りや次の行動のステップとしている。施設長は2年目であるが、昨年赴任時以降地域や市町村との交流を深めながら、昨年作成した多くのマニュアルや教育資料に従って、職員の育成に力を入れているところである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	いこいの里の家訓を理念とし、職員に一人ひとりが日々取り組んでいる。利用者が安心して在宅生活の延長で生活出来る様に、職員には徹底している	「その人らしい暮らし」の家訓を念頭に据え、職員は利用者一人ひとりの意向を大切に考え、在宅生活の延長を目指し努力している。そのためホーム内の雰囲気は家庭的で温かく、利用者の顔は皆さん穏やかである。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方から野菜の差し入れや主食である米はAランクの伊賀米を近くの農家から仕入れている。外灯は、夜間防犯のため地域の要望でつけておく協力を行っている	区長の支援を得て、地域の大正琴グループの定期的な来訪や、地域から野菜の差し入れがある。中学生の職業体験や地域の要請を受け防犯などのため外灯を点灯し、地域の理解も得られ、少しずつ交流が増えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームがどのような施設であるかの理解が必要でありそのための理解を頂くために積極的に地区集会には参加するよう心がけている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年度から委員を増やし、2ヶ月1回開催している。出来るだけ委員の皆さん意見を反映させるため、テーマを決めて論議を行っている。論議されたことは出来るだけ運営に反映させるよう努めている	地域の参加者も増え、ホームの現状や職員から困りごとを赤裸々に訴えることで、参加者からの色々なアドバイスや協力があり、改善につながっている。区長の協力を得て地域住民との合同避難訓練も実施できた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者とは連携を取り合い、事業等の問題点を共有しながら事業を進めている	運営推進会議に参加してもらおう市職員から、色々なアドバイスや意見を貰い相談できる状況ができています。疑問点等、市に出向いて直に聞くことにより、より良い信頼関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・虐待防止マニュアルを作成し、会議等で研修を行い、職員が正しい知識と理解を深めるよう進めている	施設長が、「しないケア」のマニュアルを作成した。虐待の外部講習に参加した職員はいるが、内部の講習会や勉強会は若干少ない。今まで発生はないが、拘束が必要な場合は必ず拘束理由・解除までの時間を記録し、原因の除去による早期解除に向けたシステムがある。	身体拘束禁止の対象となる具体的な行為や判断基準等の学びや、なぜ周辺症状が起きるのか？起こさない工夫を含め、パートを含めた認知症についての根本的な理解を促す教育の実施を期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、なぜこのようなところにアザがあるのか常に職員と論議し検証を行っている。自分では虐待をしたつもりがなくても、第三者から虐待と認められることがあるので、日頃からの教育を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業には、積極的に協力をを行い説明会等には、出来るだけ参加するよう心がけている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書・重要事項説明書に基づき丁寧な説明を行い、本人・家族に十分に理解していただくよう努め、質問には丁寧に答えるようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	色々のご意見をいただくようにご意見箱を設置し、面会時にご意見を頂く等したときには、必ず実行している。特に利用者の要望は出来るだけ答えられるよう努めている	運営推進会議時や面会時に家族の意見を聞いたり、介護相談員を通じて利用者の要望を聞いたり意見や要望を聞く機会を設けている。職員は時間外でも電話をうけており、要望にはすぐに対応する姿勢がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や個別面接を行い、職員の意見が広く反映させる様にしている。また、人事考課表を基に各自自己点検を行い、施設長によるフィードバックを行い必ず確認を行いながら進めている	職員は、施設長に意見を言えていることが、職員アンケートやインタビューから伺えた。職員の提案には必ず耳を傾け、実行は運営に支障のない限り職員の自主性に任せ、責任をもって遂行して貰うことにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員との個別面談により、意見や要望を吸い上げ、代表者に進言しながら出来るだけ環境整備や給与面に繁栄出来る様努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員にそれぞれの力量を把握し、力量にあった研修を行っている。外部研修は重要なことであり、勤務に支障のない限り参加させている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は大切であり、勉強会等は必要と考えていますが、ネットワークづくり等は出来ていないのが現状です		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に利用者とコミュニケーションをとりながら、本人に合ったサービス提供に心がけている。特に、初期段階は本人との信頼関係を築くことが大事であるため職員一体となり関係づくりを構築している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望や思いはサービス計画に反映し、家族と連絡を密にししながら生活が快適になるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設に入られるまでの状況は家族から説明を受け、必要なサービス対応を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	上から目線ではなく、本人と向かいあいながら本人と共に生活していく様心がけている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族への情報提供は定期的に行い、面会時には現状報告を行っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来るだけ継続して人間関係が途切れないようにしているが、どうしても家族中心になりがちであるが、家族の理解のもとで、知人等に連絡が取れるよう協力をしている	面会は家族が中心で、馴染みの人の面会や連絡は殆どなく、現実には途切れがちであるが、知人等からの手紙へは必ず返信するよう、職員による代筆等の支援を行っている。	利用者の存在感が、家族や親せき、友人から薄れないように、ホームから利用者の様子や活動を、定期的に便りとして発信することも計画中ということで、その実施が待たれる。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係は、利用者本人に任せられているが関係が悪化しないように常に心がけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了してしまうとどうしても疎遠になりがちであるが、家族の相談があれば相談に応じている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員の一方向的な考えを押し付けるのではなく本人の意思を尊重し、職員が常にコミュニケーションを図りながら問題があれば常に全員で協議を行いながら進めている	「退屈じゃない?」、「何かしたいことはない?」と聞くと決まって、「このままでいい。」と答えられるので、何気ない会話から本人の思いを聞き出すように努め、聞いたことは業務日誌に記録し、共有する様にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴は基本情報で全職員が確認しており、本人にあったサービスを行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの状況に応じて、強要ではなく状況に応じて思い思いの生活を営まれるよう心がけている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員が気づきや意見を出し合いながら、意見調整を行い介護計画を作成し、家族の意見や主治医の意見を反映している	介護計画は、家族、主治医の意見を参考にケアマネ、看護師資格保持者を含む職員間で話し合っ作成し見直している。支援内容に基づくモニタリング及び評価を行い出来る限り早く反映する努力がされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録・申し送り・業務日誌で職員が一人ひとりの状況を確認しながら進めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の変化に対応した支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	なかなか地域資源を活用出来ていないが、出来る努力をしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携は築かれており、また、協力医は月2回の往診を受け適切な医療支援を行っている。看護師は医師からの指示事項を受け、全職員に指示事項の徹底を図っている	かかりつけ医や専門医の受診は基本的に家族対応である。内科と歯科の協力医の月2回の往診後は病状報告に従い看護師から具体的なケアの指示がある。問題があると判断されたケースは、看護師と職員で話し合いながら対応がなされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師から、利用者の変化についてどのようにするか指示があり、24時間電話連絡出来る様になっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の医療連携室を通じて、病状把握を行い常に連絡を取りながら早期退院出来る様に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取りに関する方針」明確にし、ターミナル計画を作成し、家族・職員が共有し、主治医と連携を密にとりながら支援している	「看取り方針」があり、ターミナル期に入った利用者・家族と意思の確認を行った上で看取り契約書を交わし、どのような方針で看取るかを本人・家族と共に考えてゆく姿勢がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や看護師不在の場合の観察項目を設けている。職員には対応出来る様教育を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施し、日頃からどのように避難するか職員が把握し、スムーズに避難できる様にしている。地域との連携は区長と連絡が取れるようにしており協力が依頼できる	「避難時誘導一覧表」を作成し、赤(車椅子誘導)、黄(歩行見守り)、青(自力)テープを居室入り口に貼り緊急時に適切で迅速な誘導ができるようにしている。火災時以外は利用者の状態を考え、まずはホームに留まり、施設長判断でその後の行動が決まる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いに注意しながら声掛けは常に行っている。特に、おむつ交換やトイレ介助はプライドを傷つけないよう心がけている	日頃から言葉遣いや、声の大きさに気を付けているが、ついつい声が荒くなった時は、職員全員で指摘し合い意識づけがある。また、オムツ交換やトイレ介助時の人格やプライバシーには、周辺の様子を観察し十分配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人を主体として決定して頂いている。決定が間違っただしても見守っていくようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の希望は話を聞きながら、希望に添えるように心がけ支援を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に任せているが、難しい場合は職員が手伝いながら希望に添うよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は楽しみの一番であるので、出来るだけバランスの取れた食事を提供出来る様な業者を選定し、調理は職員で行っている。塩分は控えめで全体的には薄味となっている	食事の手伝いが出来る利用者は殆どいないが、食堂に面した台所での食事準備の様子を見たり、匂いを感じて食事を楽しみにしてもらおう配慮がある。また、昼食を弁当にして外で食べたり、いろいろな食事を楽しめる取り組みがある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主食は、一定量を決めて提供しており、カロリー一面は業者で計算されており、水分は一定量の補給は行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは大事なことで、在宅歯科による指導を受けながら個々のケアを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄記録により対応している。トイレ誘導を行い一人で排泄が出来るように支援しつつオムツからパンツに出来るよう支援している	昼間は、全員トレーニングパンツであるが、短時間でも掴まり立ちできる人は可能な限りトイレでの排せつ介助をしている。排泄パターンが把握でき、一時的ではあるが布パンツに戻られた人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便観察は常におこない記録し看護師と相談のうえ下剤の服薬を行いながら、それでも排便がない場合は看護師により浚便を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回は最低限として入浴を楽しんでいた。ただ、本人の希望の時間帯に入浴は出来ないが、出来るだけ希望に添うよう支援している	露天風呂気分で外の景色を眺めながらの入浴で、利用者は皆お風呂好きである。車いすの人は二人係りで介助している。気候の良い日は施設内にある足湯で温浴を楽しんでいる。週3回入浴してもらえる様検討している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の自由を尊重して、強制ではなく本人意思を尊重している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員にとっては服薬介助は大事な業務であり、服薬の内容については理解しており、服薬後の観察や誤薬のないように心がけている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせた生活を支援しながら、全てを援助するのではなく、出来ることは行って頂くよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な散歩は、駐車場への散歩程度である。特に、家族に依頼しながら外出は行っている。季節ごとの外出は、職員が計画して行っている	横光公園や余野公園等、外出できる環境が間近にある。利用者は現在体力の低下で外出は不可能であるが、駐車場でお茶やおやつを楽しんで外出気分を味わって貰っている。利用者は戸外を喜ばれ一日の表情や症状が良くなるので、定期的に企画している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の大切さは、十分理解しているが、現実にはお金を持っている人はいない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が電話したいときには支援を行い、手紙を出したいとも支援を行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、広く設計されており照明も昼光色を使用し和む感があり、特に食堂や居間は天井も高く開放感があふれている	全体的に木の温もりを感じられ、開放感がある作りで、照明は温かく柔らかい。利用者は戸外での畑作業などができなくなったので、季節感を感じてもらうために途切れなく生花を生けている。利用者が作成した貼り絵が飾ってある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	束縛をせず各自自由に生活を楽しんで頂くようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までの生活の延長として居室は、家族と相談しながら自由に使っていただき、毎日職員が環境整備を行い不快感の内容に勤めている。	利用者用小物入れは居室外に設置されており、利用者は日常共有スペースで過ごし、居室は寝るだけが多く、居室での生活感は比較的少ない。職員はハードの持つ介護力についてよく理解されていて、家族と相談を継続している。	入所時に馴染みの物の持ち込みを勧めているが、見慣れたものがあることの安心感や周辺症状を減らす効果があることを伝え、適切な思い出の品や調度品、アルバム等の配置を進められたい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立に向けて生活できるように配慮し付添いながら支援している		